

科目名	担当教員名	曜日・時限
論述問題演習	廣瀬 美佳	火曜 6 限
講義授業		
<p>●授業のテーマ 現代日本の諸問題に関する小論文問題演習・集団討議等</p> <p>●授業の内容 公務員試験では、専門試験以外にも、論文試験・集団討議・個別面接などが実施され、ここでは主として政策論が問われます。本演習は、これまで馴染みが少ないであろう政策論を実践的に学ぶプログラムであり、主として地方公務員(上級)などになることを念頭におきつつ、我が国で生起する様々な社会問題の中からテーマを設定し(具体的には、高齢化社会・治安維持・地域の活性化・防災など)、実際の試験の過去問をも用いながら、論文問題演習を中心に、可能であれば集団討議・個別プレゼン等の訓練を行ないます。 なお、本授業は対面で行なう予定です(2021.09.01.現在)が、COVID-19 をめぐる状況次第では授業態様が変わる場合もあり得ますので、大学や担当教員からの連絡には常に注意してして下さい。</p> <p>●到達目標 以下の点につき、論文としてまとめることと、口頭で相手に伝えることが出来るようになる。 ・現代日本の社会問題、特に公共的な政策的課題について、現状と問題点を説明できる。 ・問題点に対して実現可能な解決策を提示できる。 ・自らの考えを論理的かつ説得的に説明できる。 ・時々刻々変化する社会の問題に問題意識を持ち続ける。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>●平常点 100% 授業時の論文問題演習・集団討議・個別プレゼン等において、「到達目標」で挙げた諸点につき、論文としてまとめることが出来たか否か、また、口頭で自分の意見を相手に伝えることが出来たか否か等、その他演習への貢献度により評価する。</p>		
教科書		
特に指定しない。		
参考文献(コメント)		
<p>●吉岡友治『地方上級・国家一般職[大卒]・市役所上・中級 論文試験 頻出テーマのまとめ方 2022 年度版』実務教育出版 ●鈴木鋭知『公務員試験無敵の論文メソッド』実務教育出版 ●高瀬享一『公務員試験 論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント 2022 年度版』実務教育出版 ●大賀英徳『公務員試験 現職人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本 2022 年度版』実務教育出版 ●大賀英徳『公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本 2022 年度版』実務教育出版 ●山下純一『公務員 論文試験の秘伝 2022 年度採用版』TAC 出版 ●山下純一『面接・官庁訪問の秘伝 2022 年度採用版』TAC 出版 ●『公務員試験受験ジャーナル』『公務員試験学習スタートブック』実務教育出版 その他、必要なものについては適宜指示します。</p>		
授業計画(状況の変化等に応じて、履修者に説明の上、変更する場合があります)		
<p>●授業計画 第1回～第3回: 初回の導入から始まり、公務員の仕事(公務員の種類・その仕事内容・試験科目等)の解説、公務員となるために準備すべきことなどについて解説した後、まずは、自己紹介文や希望する省庁・地方公共団体の志望理由を書く作業を通じて、論文の書き方の基礎知識を学びます。 第4回～: 高齢化社会の諸問題・地域の活性化・防災のあり方など、実際の公務員試験でも出題されるテーマを取り上げ、実際に当該テーマについて論文を書いてみる中で、良い論文の書き方や、悪い論文とはどういうものか、なぜ悪い論文になってしまうのかなどを検討していきます。また、同じテーマについて、面接形式や集団討論形式での検討も実施します。 第15回: まとめ(これまでの内容の復習)</p> <p>●授業時間外の学習方法 事前・事後に配布するレジュメ・資料等(出来るだけ K-SMAPY II に up します)をもとに予習・復習をして下さい。論文の作成には事前の準備が大切であるということも本授業の目標のひとつです。また、自分の足りない点が見つかったら、関係する情報を図書館・インターネットなどで積極的に調べて下さい。授業内で書いた論文の書き直しを宿題とする場合もあります。</p> <p>●受講に関するアドバイス 本科目は PCAP 科目であり、PCAP のパブリックサービスキャリア・コース登録者を対象者とするものであって、卒業後、公務員となることを志望している学生を想定しています。但し、現時点で公務員志望が固まっている必要はなく、授業の内容が現代日本の社会問題を扱うものであることから、最終的に民間企業に就職する場合でも、本演習の内容は役立つものと思われま</p>		

第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ●イントロダクション(準備学習 30 分:シラバスをよく読み、自己紹介文を用意する) ・ガイダンス ・履修者ごとに、どの公務員試験ないし資格試験を志望するのか等につき、確認します。 ・事前に用意した自己紹介文に基づき、口頭でのプレゼンテーションを行なってみる。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ●志望理由をまとめてみる(準備学習 60 分:なりたい公務員ないし取得したい資格 1 件について調べておく) ・第 1 回で示したところに基づき、なぜ自分が当該公務員になりたいのか、ないしは、なぜ当該資格を取得したいのか、文書にまとめた上で、口頭でのプレゼンテーションを行なってみる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎知識まとめ(準備学習 60 分:第 1 回および第 2 回の復習) ・第 1 回&第 2 回で経験したところに基づき、各自、文章を書く上で、あるいは口頭発表をする上で、自分に何が足りないか、どこを伸ばしていったらよいか、考えてみる。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文作成(01) (準備学習 60 分:事前に表示されたテーマについて調べておく) ・事前に提示した or その場で示されたテーマに関連する問題につき、小論文を書いてみる。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文作成(02) (準備学習 60 分:事前に表示されたテーマについて調べておく) ・事前に提示した or その場で示されたテーマに関連する問題につき、小論文を書いてみる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文作成(03) (準備学習 60 分:事前に表示されたテーマについて調べておく) ・事前に提示した or その場で示されたテーマに関連する問題につき、小論文を書いてみる。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ●中間のまとめ (準備学習 60 分:前回までに書いたものを見直しておく) ・前回までの経験をもとに、良い論文とは何か、悪い論文とはどのようなものか、などにつき考えてみる。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ●個別発表(01) (準備学習 60 分:前回までの復習により、当日の個別発表に備える) ・第 04 回～第 06 回で取り上げたテーマに係る課題につき、各自、口頭で発表してみる。 ・口頭での発表につき、担当者以外は質疑をし、担当者はそれに答える訓練をしてみる。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ●集団討論(01) (準備学習 60 分:前回までの復習により、当日の集団討論に備える) ・第 8 回で取り上げた課題につき、集団討論をしてみる。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ●個別発表(02) (準備学習 60 分:前回までの復習により、当日の個別発表に備える) ・第 04 回～第 06 回で取り上げたテーマに係る課題につき、各自、口頭で発表してみる。 ・口頭での発表につき、担当者以外は質疑をし、担当者はそれに答える訓練をしてみる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ●集団討論(02) (準備学習 60 分:前回までの復習により、当日の集団討論に備える) ・第 10 回で取り上げた課題につき、集団討論をしてみる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文作成(04) (準備学習 60 分:事前に表示されたテーマについて調べておく) ・事前に提示した or その場で示されたテーマに関連する問題につき、小論文を書いてみる。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ●集団討論(03) (準備学習 60 分:前回までの復習により、当日の集団討論に備える) ・第 10 回で取り上げた課題につき、集団討論をしてみる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ●集団討論(04) (準備学習 60 分:前回までの復習により、当日の集団討論に備える) ・第 10 回で取り上げた課題につき、集団討論をしてみる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ●最終のまとめ(準備学習 60 分:これまでに学んだところを振り返っておくこと)

※事後学修については、所要時間 120 分とし、具体的内容は各回の最後に指示することとする。